

飯島賢二の 『恐縮ですが...一言コラム』

第 415 回 「おこりびと」と「くまのプーさん」

2011.4.17

仕事ができる人は、なぜ怒りっぽいのか...松下信武先生（獨協大学経済学部特任教授）の論文から、小生なりにまとめてみた。題して「おこりびと」と「くまのプーさん」の心理学的考察である。

企業で仕事のできる評判の高い人が、「おこりびと」などの別名で秘かに呼ばれている。どうも仕事の速い人ほど、すぐに腹を立てる人が多いようである。仕事が速い人は、早く課題を解決しようとする。まじめなビジネスパーソンほど、見通しがきかない状態を不愉快に思い、できるだけ早く仕事をやり遂げようとするといえる。だから仕事が速い人はすぐに腹を立ててしまうということになる。

我々は複雑な現象を理解する時、**ステレオタイプ化**（型にはまった画一的なイメージ）しようとする。成果主義に慣れきった現代のビジネス社会では、「スピード」が尊ばれるために、安易なステレオタイプ化が広がっていく。『速戦即決、前面の敵を片づける』のである。明らかに我々は常に何かを片づけようとし、片づかないと『自分の気持が片づかない』。手早く「片づけて」しまうために、仕事は確かに速くなるのだが、その裏の真理は、鬱病や人格障害の温床でもあり、抑鬱、軽蔑、嫌悪、苛立ちなどの情動を引き起こしやすくなるということ、つい見逃してしまう。

更に自分の仕事が熟達すると、**セルフエフィカシー**（self Efficacy 自己効力感：自分がある状況で、あることができる能力があるという意識）が高まる。セルフエフィカシーが高くなると、その結果受け取る種々の報酬（ポジション、給与、処遇、敬意など、社会的、物質的、心理的な報酬のこと）への期待が高くなる。セルフエフィカシーの高い人が、期待した処遇や敬意を受け取れないと、不平をもったり、憤激しやすくなる。有能な女性が、同じ能力をもっている男性に比べて、昇進ができないとか、給与が安いときの心理状態を思い浮かべて頂きたい。この優秀な人たちも、すぐに腹を立てる傾向がある。

これに対し仕事の遅い人は、多様な視点からものごとや人間を見つつ、柔軟に、安定した情動をもって仕事をしている貴重な人材なのである。ディズニーで例えれば、「**くまのプーさん**」のような人である。「くまのプーさん」はゆったりと生きているが、時折仲間が考えつかないような意見を言って、仲間に「新しい気付き」を与える。

成果主義的人事施策をとると、仕事の速い人を高く評価しがちになる。そのために、せかせかと動きまわる人が多くなり、固定的なものの見方が蔓延する。そのリスクを小さくするために、仕事は遅いが、多様な視点に立ち、柔軟に考える人材が必要なのである。我社のスタッフが「くまのプーさん」ばかりだと、空恐ろしいと思うが、それもバランスなのだろう。確かに今は、何事も拙速に考えすぎ、動きすぎるきらいがある。

仕事ができる人ほど怒りっぽい...そんな優秀ではないが、小生自身も「おこりびと」と言われているかもしれない。この際、素直に反省しておこう！

参考：プレジデントロイター 松下信武著（ゾム代表取締役社長）

<http://president.jp.reuters.com/article/2009/05/09/87F11F8C-3AC5-11DE-9955-E5BF3E99CD51.php>